

平成30年度から令和元年度の起業家教育について

1 実践授業について

- (1) 科目名 : 3学年必修科目「地域ビジネスプランニング」(2単位・学校設定科目)
- (2) 実践期間 : 4月～1月
- (3) 指導形態 : 担当教員3名によるティームティーチング

2 起業家教育について

起業家教育は、模擬会社の運営や商品開発、販売体験などの経済活動を題材とした課題解決学習を通して、生徒が自ら課題を見つけ解決していく過程の中で、起業家精神や起業家的資質・能力を育成する教育である。起業家精神とは、未来を切り開くチャレンジ精神であり、創造性や探究心、そして自信をとまなうものである。起業家的資質・能力とは、課題を解決するため、情報を収集し分析する力、協同して取り組むチームワーク力、さらに、リーダーシップ、プレゼンテーション力、コミュニケーション力等を指している。

これらの力は、企業を立ち上げる起業家だけに必要な力ではなく、社会の中でよりよく生きていくために、だれにも必要な力であり、特にこれからの社会を担っていく子供たちが身に付けるべき基本的な力であると言える。

3 使用教材について

- (1) 主なプログラム(教材)名 「鹿島台商業高等学校アントレプレナーシッププログラム」
(KASHIMADAI commercial high school Entrepreneurship Program 通称:KEP) 他

- (2) 独自教材の作成にあたって

教材は本校が独自作成しており、グループ学習を主体とした課題解決型学習を行っている。特に、グループ活動の活性化と生徒の思考力や創造力の向上を目指し、社会で意思決定や企画会議等で活用されている「フレームワーク」を取り入れている。特に、アイスブレイク、6W3H等のフレームワークを効果的に行う等の工夫をしている。

- (3) 地域との連携・大学との連携について

令和2年1月の「学習成果発表会」において、3学年全員がステージ上でこれまでの調査研究内容をまとめ発表を行い、地域の皆様、大学生の方々および大学教授の先生等より御助言をいただく貴重な機会となる予定である。

4 本校の起業家教育における観光教育、他の商業科目「広告と販売促進」等との連携について

本校では起業家教育の取組を継続して行っており、この「地域ビジネスプランニング」等に引き継がれている。平成30年度からは、観光教育を重視した教育内容も積極的に取り入れ、着実な成果が出てきている。

本校の特色の一つである「地域ビジネスプランニング」の一層の充実のために、学習内容をさらに深め、学んだ内容を他の生徒にも還元することを主な目的として、3学年選択科目「広告と販売促進」や、今後の生徒育成等のために、2学年「課題研究(商業研究講座)」の一部時間でも取り組んだ。例えば、6月に「駅からハイキング」の下見(校外活動)の準備・実施・振り返り、地域等の先行調査および内容を深めた調査等を行い、連携を密にした。

下記の画像のように、3学年選択科目「広告と販売促進」では、アイスブレイクの一つである「ペーパータワー」や、KJ法という手法の前段階としてのブレインストーミングによる手法により、地域の課題について考えさせた。そしてその後、ワールドカフェという手法を用い学習を深め、教育的効果を一層上げるための取り組みを行った。





上記の画像3枚は、3学年選択科目「広告と販売促進」、2学年「課題研究（商業研究講座）」の生徒による6月に実施した「駅からハイキング」の下見（校外活動）の様子であり、生徒一人一人が意欲的に取り組んでいた。

5 生徒が取り組む課題（ミッション）について

(1) ミッション 「大崎地域の資源を活用し、国内外の観光客を誘致するため、『駅からハイキング』を提案せよ！」

(2) ミッションの背景

- ① 地域貢献・大崎市の魅力を発信し、大崎市に対する滞在需要を発掘する。
- ② 様々な手法を取り入れて、交流人口を増やしていく。
- ③ 大崎地区の学校として、お世話になった大崎へ恩返しをしていく。

キーポイント：インバウンド（海外から日本へ）、アウトバウンド（日本から海外へ）

(3) ミッションの方向性について

- ① 大崎市（鹿島台・松山・品井沼【松島の管轄区】）における駅からハイキングコースを考案する。
- ② 県内外の人々や国外の人々を観光案内する。
- ③ 日本の文化・東北の文化・宮城の文化・大崎市の文化を発信する。
- ④ 異国間・異年齢の交流と国内外の輪を広げる

6 特徴のある授業実践例

(1) 「駅からハイキング」コースの選定・作成に向けた『フィールドワーク』（令和元年12月6日（金））

ミッションにおいて、鹿島台駅、品井沼駅、松山町駅の『駅からハイキング』を計画しており、住んでいる地域や通学している地域であっても知らないことやわからないことも多くあるので、計画しているハイキングコースを実際に探索するフィールドワークを実施した。

令和元年12月6日（金）に鹿島台・松山・品井沼の各駅を出発点として行い、本校生徒が企画・立案を目指している「駅からハイキング」のコース選定・作成に向けた活動となった。実施目的は、令和2年1月22日（水）の「学習成果発表会」ならびに、次年度の「駅からハイキング」コースの選定・作成に向けてのものであった。

生徒たちは、かなり前からインターネットや図書資料等で地域について班ごとに詳細な調査をていねいに行ったのが今年度の特徴である。今回は現地調査として仮コースを自ら歩いて、資料だけでは見えてこない資源の発掘および「駅からハイキング」の時間配分等について考える貴重な時間となった。

天気にも大変恵まれ、生徒たちは意欲的かつ積極的に現地での活動を行っていた。





(2) 特別講演の実施（宮城学院女子大学現代ビジネス学部長・教授 宮原 育子 様）（令和元年10月24日（水））

この「地域ビジネスプランニング（3学年・商業科）」と「ビジネス基礎（1学年・商業科）」の各授業において、それぞれ2時間ずつ特別講演が行われた。講師は、宮城学院女子大学現代ビジネス学部長・教授 宮原 育子 様にお越しいただき、観光に関すること等、大変有意義なお話をいただいた。宮原先生は、観光に関する研究者として大変著名であるとともに、平成27年度までの長い間、本校のキャリア教育推進協議会（平成19年度から3年間は「大崎起業家マインド育成協議会」）の座長をしていただき、多くの御助言等を頂戴した。

講演内容は、観光に関して大変わかりやすくお話をいただくとともに、本校で長年教育活動に関係していたこともあり、鹿島台互市をはじめとした本校を取り巻く地域の様子を十分把握した上でのお話や、貴学の学生が観光をはじめとした教育および研究の成果を御紹介いただき、とても役立つお話が続き、あっという間の2時間であった。

今後とも先生から御指導・御支援をいただきたく、なおかつ一層連携を深めていくことを確認することができた。



7 授業実践の主な流れについて

平成30年度から「大崎地域の資源を活用し、国内外の観光客を誘致するため、『駅からハイキング』を提案せよ!」を課題（ミッション）として行っている。平成30年度・令和元年度（過去2年間）の主な教育実践をまとめると、以下の通りである。

- ① 起業家教育オリエンテーション・グループ編成
- ② ミッションを受け取る。
- ③ チーム理念を考え、決める。
- ④ ミッションの背景を知る（ロジックツリー等）
- ⑤ アドバイザーミーティング
- ⑥ 地域資源の調べ学習およびフィールドワーク
- ⑦ 企画会議
- ⑧ 中間報告会
- ⑨ 学習成果発表会に向けての修正・改善
- ⑩ 発表用資料およびプレゼン画面・発表原稿作成
- ⑪ 学習成果発表会



8 受講生徒対象の調査結果および今後の見通しについて

全校生徒全員対象の事後調査を質問紙法により行った。令和元年度は、令和2年2月に3学年80名を対象に、欠席者等を除く69名から回答があった。3学年生徒全員対象のアンケート結果では、3年生生徒全員対象のアンケート結果では、起業家教育（観光教育を実施）・学習成果発表会は、「良かった」「どちらかという良かった」合わせて**81.2%**という結果となり、昨年度より**3%上昇**した。

生徒からは「**高校生が地域のことについて詳しくなれば、もっと観光客にPRができ、たくさんの方々が来てくれると思う**」「**活動をすることによって、地域の必要性がだんだんと分かってくると思う**」「**プレゼンテーションする力が育める**」「**内容を考えるのは大変だったが、自分たちの良いことが発表できた**」「**地域のことを知れた**」等、肯定的な感想が多数得られた。また、発表会当日の来場者からも、昨年度を上回る良い評価を得られることができた。

9 教育実践のまとめと今後の課題

- (1) 本校の観光教育が少しずつ浸透してきたこともあり、全般的に授業への取り組みが良好であった。この授業において、積極的にコミュニケーションをとっている場面や、グループ活動時に高いチームワークを発揮して活動に臨んでいる場面などが見られ、生徒が普段見られない一面を見ることができた。生徒の良くない部分に偏って着目し指導することのないように、良い部分を伸ばすという指導について改めて考えさせられる実践であった。
- (2) この授業のような活動に不慣れな生徒も少なからずいるため、学校全体でアクティブ・ラーニング（グループ活動、プレゼンテーション等）の実践について、必要に応じて積極的に取り入れていく必要性を感じる。様々な能力を高めようとする起業家教育ではあるが、この地域ビジネスプランニングという1つの科目の一部の期間のみでは、十分な効果は期待できない。そのようなことから、3学年「広告と販売促進」や2学年「課題研究（商業研究講座）」等と連携を深め、教育効果を目指した。今後も、他の商業科目とのつながりや、普通教科との連携なども視野に入れ、3年間を通しての系統的な起業家教育、特にアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れながら、カリキュラムマネジメントを視野に入れた取り組みがより一層必要である。
- (3) 地域との連携がより一層重視されていく中で、今後より一層、地域からの期待に応えられるような取り組み、地域に根ざした人材育成を目指し、起業家教育のみではなく、本校の特色の一つとして一層の充実が求められる。

地域ビジネスプランニング（起業家教育）

【令和元年度ミッション】（平成30年度より継続）

**「大崎地域の資源を活用し、
国内外の観光客を誘致するため、
『駅からハイキング』を提案せよ！」**

【今年度のミッションの背景】（平成30年度より継続）

- ① 地域貢献・大崎市の魅力を発信し、大崎市に対する滞在需要を発掘する。
- ② 様々な手法を取り入れて、交流人口を増やしていく。
- ③ 大崎地区の学校として、お世話になった大崎へ恩返しをしていく。
キーポイント：インバウンド（海外から日本へ）、アウトバウンド（日本から海外へ）

【ミッションの方向性について】（平成30年度より継続）

- ① 大崎市（鹿島台・松山・品井沼【松島の管轄区】）における駅からハイキングコースを考案する。
- ② 県内外の人々や国外の人々を観光案内する。
- ③ 日本の文化・東北の文化・宮城の文化・大崎市の文化を発信する。
- ④ 異国間・異年齢の交流と国内外の輪を広げる・観光客が旅行に求めるニーズの変化